化け物狩りの殺し屋

翳鴉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
化け物狩りの殺し屋

【Ｎコード】
Ｎ５４８２Ｚ

【作者名】
翳鴉

【あらすじ】
２０３５年、人間は忘れられない事件を残した。
その事件に関係する人間は全て消えてしまった。
そんな事件である４人人間が消えた。

プロローグ

「ふわぁ…眠い。」

一人ののんびり者の少年――――。

「ちょっと！早く、しないと遅刻するわよ！！」

一人の真面目な少女――――。

ガタッゴトッ

「…つまんない。」

一人ぼっちな少年――――。

「ん？主様！！おはようございます！！」ニコッ

森に住む一人の狼の少女――――。

そして…。

「……。」

一人、洞窟で封印されている少女――――。

犀王寺（さいおうじ）　裕（ゆう）

高校1年生の男。

のんびり者でマイペース？

寝ることしか頭にない。

ある事件に巻き込まれる。

蒼雅宮（そうがみや）　長閑（のどか）

高校1年生の女。

しっかり者で真面目で強がり。

成績優秀。裕と幼馴染で裕のお世話係り。

ある事件に巻き込まれる。

無北弐（むきたに）　玲夜（れいあ）

高校1年生の男。

無口で暗くて笑わない。

いつも一人。ゲームをするのが好き。

ある事件に巻き込まれる。

薙（なぎ）

15歳の女。

明るくて優しくて元気。

人間観察が大好き。

狼族の血を引く。

15歳になると人里に下りなくてはならない。

ある事件に巻き込まれる。

この人達はある事件の関係者。

そして、洞窟に眠る少女も関係する。

1話　片目がない少年（前書き）

この小説は結構物語が難しい？ので、更新はいつもより遅いです。

1話　片目がない少年

「Ｚｚｚｚ。」
寝ている少年の名前は『犀王寺裕（さいおうじゆう）』
右目には包帯を巻いている。

そして、寝ている裕の上で目覚ましが鳴る。
「ん？…もう６時か…。」
裕は、目覚ましを止め起き上がる。
家は静かだった。

「はぁ…おはよう、母さん、父さん」ニコッ
裕はお供え物と朝のあいさつをする。
裕の両親はなくなった。
「飯～飯～パン、あったっけ？」
そして、裕の携帯がなった。
「ん？メールか？後で見るか。最初は飯だ。」
裕は出際良く、料理がとても上手だった。
そして、パンにジャムを塗り、学校の用意をして出かける。

時刻０７：００――――――。

裕の家は学校から遠く、いつも早く家を出る。
家の鍵を閉め、さっき来たメールを見る。

「！？…。」
そして、裕は驚いていた。
メールの内容は。

「犀王寺裕様へ
あなたを望みを一つだけ叶えて差し上げましょう。
その代わりの対価をあなたには払ってもらいます。
来るのでしたら、今日の夜１２時の幻電車に乗ってください。」
これがメールの内容だった。

「…これって…迷惑メールか？」
裕はあんまり気にしないで、携帯をポケットにしまい、学校に向かった。

そして、学校に着く。

時刻０８：００――――。
そして、学校の門では服装チェックをしていた。
「…はぁ、相変わらずだな。」
「コラ！あなた、ちゃんと服装を整える！服装は乱さない！分かった？」
「長閑。おはよう。」
「あっ、裕、おはよう。って、ネクタイ曲がってるよ。」
長閑という人が裕のネクタイをなおす。
「うん、裕はいつも規則正しくて宜しい。」
「サンキュ！。」
「後で昼ごはん、おごってよぉー！！」
「分かったよ！」ニコッ
二人は幼馴染で小さい頃から仲が良かった。

「うわぁ、何？あの目。」
「包帯男？」
周りは裕の包帯をしている右目を見て、コソコソ噂を立てたりしてるらしい。

どうたら、裕の右目は他人からは”気持ち悪い”らしい。
「はぁ…。」
だけど、裕はあまり気にしなかった。
ただ、いつも物静かに平和に暮らしていた。

そして、携帯が鳴った。
また、メール。そして内容を読んでみる。
「…犀王寺裕様へ
先ほどもメールしましたが、これは真実。
あなたが電車に乗れば、あなたの望みは叶います。
嘘なんてついてません。対価を払ってくれれば嘘ではありません。
」
こう書かれていた。
「…対価…俺の聞きたくない言葉…。」

そして、放課後。
裕は急いで学校から出る。
その時、門の前に立っている長閑を見た。
その時、長閑の手には携帯があった。
だけど、裕はそれに気づかずそのまま家に帰ってしまった。

時刻１１：３―――――――。

「行くか…。」
裕は家の鍵を閉め、家の前で立ち止まる。
「…俺の望みを叶えてくれるんだって…だから俺は行く…その対価ってのを払いに。」
裕はそのまま駅の方に走って行った。

そして、誰も居ない駅。
人一人見つからない、ホームレスがいても不思議じゃない。
だけど、誰も居ないし、電車も来ない。
「……。」
だけど裕はじっと電車を待っていた。
そして、電車が来た。
見た目は普通の電車と一緒だった。
ドアが開く。
「お待ちしておりました。犀王寺裕様。」ニコッ
「……。」
そして、裕は電車に乗った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5482z/

化け物狩りの殺し屋

2011年12月20日15時51分発行